

企画展プレスリリース「生誕 100 年 せいみやなおぶみ 清宮質文 あの夕日の彼方へ」

平素より当館の事業にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

標記の件につきまして、本書のとおりご案内いたします。

1 展覧会名 企画展「生誕 100 年 せいみやなおぶみ 清宮質文 あの夕日の彼方へ」

2 会 期 平成 30 年 2 月 23 日(金)～4 月 8 日(日)

3 展覧会概要 (資料 2～3 ページ参照)

清宮質文は「彫り」の線や、「摺り」による色の重なりなど、木版ならではの表現を追求しました。摺りごとに色調を変え、中には 1 枚しか摺られなかった作品もあります。本展は生誕 100 年を記念する大回顧展として、木版の代表作に加え、水彩、ガラス絵など 191 点を紹介します。

4 出品作品 (資料 3, 5 ページ参照)

191 点 (内訳: 木版 126 点 / 油彩 3 点 / 水彩 18 点 / ガラス絵 32 点 / モノタイプ 12 点)



作品名・制作年・所蔵 (図版左から)

- 1) 孤独な魂 1956 年 (モノタイプ) 照沼毅陽氏蔵
- 2) さまよう蝶 (何処へー夢の中) 1963 年 (木版・紙) 茨城県近代美術館 照沼コレクション
- 3) 夕日と猫 1979 年 (木版・紙) 茨城県近代美術館 照沼コレクション

※出品作品図版は 6 点あります。その他図版については資料 5 ページを参照してください。

5 イベント (資料 4 ページ参照)

オープニングセレモニー及び内覧会

- (1) 日時: 2 月 22 日(木)午後 2 時 30 分～4 時 30 分 ※午後 2 時～常陽銀行図録贈呈式 (館長室)
- (2) 会場: 企画展示室入口 (オープニングセレモニー), 企画展示室 (内覧会)
- (3) 内容: オープニングセレモニー (テープカット), 企画展鑑賞。

また、本展では常陽銀行から協賛として図録の寄贈をいただいております。図録は県内の小・中・高校・特別支援学校等にて活用していただきます。つきましては、本県の芸術文化の振興に多大な貢献をされたことに対して感謝状の贈呈式を行いますので、あわせて取材願います。

※その他イベントについては資料 4 ページを参照してください。

《問い合わせ先》茨城県近代美術館 〒310-0851 茨城県水戸市千波町東久保 666-1

Tel: 029-243-5111 / Fax: 029-243-9992 / E-mail: fukyu-pub@modernart.museum.ibk.ed.jp

展覧会担当: 美術課 井野 / 広報担当: 企画普及課 平川

## 1 展覧会名

生誕 100 年 <sup>せいみやなおぶみ</sup> 清宮質文 あの夕日の彼方へ

## 2 主催等

主催：茨城県近代美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会

協賛：ライオン／大日本印刷／損保ジャパン日本興亜／日本テレビ放送網

常陽銀行

## 3 会期

平成 30 年 2 月 23 日(金)～4 月 8 日(日)

休館日：4 月 2 日(月) ※水戸の梅まつりにあわせて会期中 4 月 1 日(日)まで無休

開館時間：午前 9 時 30 分～午後 5 時(入場は午後 4 時 30 分まで)

※ 高崎市美術館 (平成 29 年 12 月 10 日(日)～平成 30 年 1 月 31 日(水)) より巡回

## 4 会場

茨城県近代美術館

## 5 入館料

一般 980(850)円／高大生 720(600)円／小中生 360(240)円

※ ( ) 内は 20 名以上の団体割引料金

※満 70 歳以上の方、障害者手帳等をご持参の方は無料。春休みを除く土曜日は高校生以下無料

## 6 展覧会概要(約 700 文字)

木版画家として知られる清宮質文(1917-1991)。その静かな詩情は今なお多くの人を魅了し続けています。人の営みに寄せる深い共感と、彼方へと開かれてゆく想像力の限りない可能性を示してくれたことが、その仕事の本質といえるでしょう。

清宮は東京に生まれ(本籍茨城県)、東京美術学校で油絵を学びます。戦後、教員生活を経て 1953 年より制作に専念し、また本格的に木版画に取り組むようになります。1954 年から 77 年までは春陽会を発表の場とし、以降は同会を離れて個展を中心に活動しました。

清宮は版による複製性よりも、「彫り」の線や、「摺り」による色の重なりといった、版画ならではのイメージの中に、表現の可能性を追求しました。油性のインクではなく透明水彩を用い、摺りごとに微妙に色調を変えるその版画作品は、みる人の心にしみ入るような詩情に溢れています。

この特徴ある著名版画家が水戸市内の墓地に眠っていることは、残念ながらあまり知られていません。かつて清宮家は常陸国鹿島郡夏海<sup>なつみ</sup>(現在の大洗町成田町の一部)の豪族で、清宮質文の先祖は代々守山藩(水戸藩の支藩)の藩士でした。守山藩士であった祖父、そして祖母の墓があり、母の実家もあつた水戸の地を清宮質文は繰り返し訪れています。本展は清宮質文をゆかりの作家として紹介する、県内初の回顧展となります。

生誕 100 年を記念するこの展覧会では、年代順に制作テーマの変遷を追いながら、木版を中心に、水彩、ガラス絵など 191 点により清宮の仕事を紹介します。そして時間と空間、永遠と一瞬を描く生涯のテーマである「夕日」の彼方で、清宮質文のまなざしとの再会を試みます。

### 【広報文 1】(61 字)

詩情溢れる木版作品で多くの人を魅了する<sup>せいみやなおぶみ</sup>清宮質文の生誕 100 年を記念する大回顧展です。木版、水彩、ガラス絵など 191 点を紹介します。

### 【広報文 2】(126 字)

清宮質文は「彫り」の線や、「摺り」による色の重なりなど、木版ならではの表現を追求しました。摺りごとに色調を変え、中には 1 枚しか摺られなかった作品もあります。本展は生誕 100 年を記念する大回顧展として、木版の代表作に加え、水彩、ガラス絵など 191 点を紹介します。

### 【広報文 3】(218 字)

清宮質文は木版画家として知られていますが、その作品の湛える静かな詩情は今なお多くの人を魅了し続けています。清宮は水戸藩の支藩である守山藩士の末裔で、母の実家があった水戸を繰り返し訪れているばかりでなく、水戸市松本町の共有墓地に本人が埋葬されていることはあまり知られていません。

今回は、本県ゆかりの作家である清宮の生誕 100 年を記念する大回顧展であり、年代順に制作テーマの変遷を追いながら、木版を中心に水彩画、ガラス絵など 191 点を紹介します。

## 7 出品点数、構成

191 点（内訳：木版 126 点／油彩 3 点／水彩 18 点／ガラス絵 32 点／モノタイプ 12 点）

第 1 章 彼方の光は遠く、かたわらには透明水彩があった。 1953 年まで

6 点：油彩 3 点／水彩 2 点／ガラス絵 1 点

第 2 章 最初の光が摺りとられる。 1959 年まで

13 点：木版 11 点／モノタイプ 2 点

第 3 章 蝶があらわれる。時の流れをみつめる。 1960 年代

49 点：木版 44 点／水彩 1 点／ガラス絵 4 点

第 4 章 暗い夕日に永遠と一瞬をみつめる。 1970 年代

59 点：木版 46 点／水彩 5 点／ガラス絵 8 点

第 5 章 そして、夕日の彼方へ。 1991 年まで

64 点：木版 25 点／水彩 10 点／ガラス絵 19 点／モノタイプ 10 点

※会期中、一部展示替えがあります。

（展示替作品数 12 点：3 月 16 日（金）までの展示作品 6 点／3 月 17 日（土）からの展示作品 6 点）

## 8 展覧会の特徴と見どころ

### (1) 生誕 100 年記念展

生誕 100 年を記念する大規模な回顧展です。木版を中心に、水彩、ガラス絵など 191 点によって清宮質文の全貌を紹介します。

### (2) 版画であっても希少な作品

清宮質文の代表作は木版によるものですが、その特徴として、版画であっても 1 枚あるいは数枚しか摺られなかった作品が多くあります。版画であっても、摺りの少ない作例を実際にみることができる機会は少ないため、本展覧会は清宮版画の真髄に触れる貴重な機会となります。

### (3) 摺りへのこだわり

清宮質文の木版画では、摺りによって色調などが大きく変わる作例が多くあります。本展覧会では同じ版の異なる摺りの作品も展示するので、摺りによるヴァリエーションも楽しんでいただけます。

### (4) 茨城ゆかりの作家

清宮質文は水戸藩の支藩である守山藩士の末裔です。清宮は自身のルーツを丹念に調べており、また水戸の地を繰り返し訪れていました。本展覧会では茨城ゆかりの作家として、水戸と作家との関係を紹介いたします。

### (5) 貴重な資料をあわせて紹介

本展覧会では作品と共に、版木を展示します。「木版多色刷り」の技法について、実際の版木から詳しく知ることができると共に、清宮の制作の現場を垣間見ることができます。

## 9 イベント

### (1) オープニングセレモニー及び内覧会

日時：2月22日(木)午後2時30分～4時30分 ※午後2時～常陽銀行図録贈呈式(館長室)

会場：企画展示室入口(オープニングセレモニー)、企画展示室(内覧会)

定員：50名

申込：事前申込(来館、または往復ハガキ)、締切2月9日(金)(ハガキ必着)

内容：オープニングセレモニー(テープカット)、企画展鑑賞。

また、本展では常陽銀行から協賛として図録の寄贈をいただいております。図録は県内の小・中・高校・特別支援学校にて活用していただきます。つきましては、本県の芸術文化の振興に多大な貢献をされたことに対して感謝状の贈呈式を行います。

### (2) 講演+実演「清宮の木版技法のツボ」

日時：3月4日(日)午後2時～3時30分

会場：地階講堂 / 定員：250名

申込：事前申込不要、聴講無料

講師：岩佐 <sup>とさ</sup> 徹氏(版画家)

### (3) 担当学芸員によるギャラリートーク

日時：3月11日(日)午後2時～3時

会場：企画展示室 / 定員：50名

申込：事前申込不要(要企画展チケット)

講師：井野功一(当館首席学芸員)

### (4) ミュージアムコンサート「好文の梅 華麗なる桜 春の一日“箏”の花を咲かせます」

日時：3月18日(日)午後2時～3時30分(途中休憩有)

会場：地階講堂 / 定員：250名程度

申込：事前申込不要、参加無料

出演：水野箏曲会(代表 水野紀美子氏 他会員)、賛助出演：内田有一氏(クラリネット)

曲目：湧き出づる力、童謡(おぼろ月夜など)、さくら 他

### (5) ワークショップ&トーク「ガラス絵～心の中の閃光～」

日時：3月24日(土)午前11時30分～午後4時30分

会場：地階講座室、展示室 / 定員：先着30名

申込：事前申込(来館、または往復ハガキ)、締切3月9日(金)(ハガキ必着)

講師：山中 <sup>みや</sup> 現氏(画家・版画家)

材料費：700円

## 【申込方法】

### (1) 来館の場合

当館総合受付にて参加申込書に記入していただきます。

### (2) 往復ハガキの場合

往信用文面に希望者全員(1枚につき4名まで)の氏名・住所・年齢・電話番号を、返信用宛名面に宛先を明記の上、『オープニング係』または『ガラス絵ワークショップ係』宛に郵送してください。

## 10 問い合わせ先

茨城県近代美術館 〒310-0851 茨城県水戸市千波町東久保 666-1

Tel:029-243-5111 Fax:029-243-9992 E-mail: fukyu-pub@modernart.museum.ibk.ed.jp

展示担当：美術課 井野 / 広報担当：企画普及課 平川

**出品作品図版**

※1 このページに掲載された作品は、本展覧会の広報目的の場合にのみ掲載可能です。

※2 画像には、作品名・制作年・所蔵を必ず入れてください。

- |                    |                |                   |
|--------------------|----------------|-------------------|
| 1) 孤独な魂            | 1956 年 (モノタイプ) | 照沼毅陽氏蔵            |
| 2) さまよう蝶 (何処へー夢の中) | 1963 年 (木版・紙)  | 茨城県近代美術館 照沼コレクション |
| 3) 深夜の蠟燭           | 1974 年 (木版・紙)  | 茨城県近代美術館 照沼コレクション |
| 4) 夕日と猫            | 1979 年 (木版・紙)  | 茨城県近代美術館 照沼コレクション |
| 5) 山上の湖            | 1981 年 (木版・紙)  | 茨城県近代美術館 照沼コレクション |
| 6) 窓辺の燭台           | 制作年不詳 (ガラス絵)   | 個人蔵               |

